

KDS NEWS

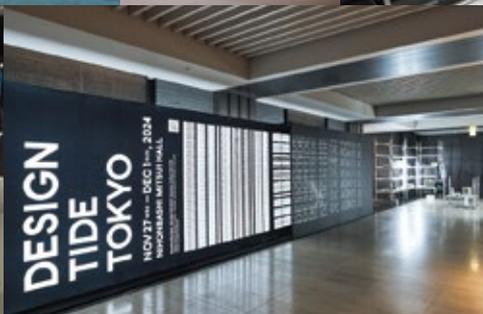
dosokai

2025 no.192



第65回 定期総会開催 および 第31回 [2025] 桑沢賞 表彰式開催のお知らせ

2025年5月31日(土)
14:00~17:30
WITH HARAJUKU HALL
JR 原宿駅前 WITH HARAJUKU 3F



第65回 桑沢デザイン研究所同窓会定期総会開催および 第31回 [2025] 桑沢賞 表彰式開催のお知らせ



左・右上：第30回桑沢賞表彰式／右下：第64回定期総会開催の様子

同窓生の皆さま

桑沢デザイン研究所同窓会が、桑澤洋子先生の業績を記念して1992年に創設した「桑沢賞」は、このたび31回を迎えます。第31回 [2025] 桑沢賞表彰式を、来たる5月31日（土）にJR原宿駅前のWITH HARAJUKU HALLで開催し、表彰式終了後には交流会も行います。表彰式の前には、第65回を迎える定期総会を行います。ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

桑沢デザイン研究所同窓会
会長 八十島博明

日時

2025年5月31日(土)

場所

WITH HARAJUKU HALL

JR原宿駅前 WITH HARAJUKU 3F

参加費無料



14:00～14:30

第65回桑沢デザイン研究所同窓会定期総会

2024年度の活動報告、会計報告、2025年度の活動方針、予算などの議事・報告を行います。

15:00～17:30

第31回 [2025] 桑沢賞表彰式

各賞の表彰 桑沢新人賞
桑沢スピリット賞
桑沢特別賞
桑沢賞
表彰式終了後、交流会

第31回 [2025] 桑沢賞 各賞受賞者 (敬称略)

桑沢賞(本賞)

青木 健二 写真家 (2部 63VD2B)

桑沢特別賞

渡辺 弘明 インダストリアルデザイナー (1部 58L研ID)

桑沢スピリット賞

平林 千明 玩具開発者 (1部 H11L研ID)

岩柳 麻子 シェフパティシエール (1部 H11D研C)

桑沢新人賞

戸田 明希 (浅葉克己 + 菊地敦己ゼミ)

横山 友人 (浅葉克己 + 菊地敦己ゼミ)

渡邊 萌衣 (伊藤透ゼミ)

渡部 沙幸 (羽金知美ゼミ)

久能 楓 (白木幸一郎ゼミ)

馬瀬 日向子 (篠崎隆ゼミ)

河村 健太 (藤田恭一ゼミ)

山崎 舞華 (夜間 VD2B)

同窓会委員 募集中

同窓会の活動の企画・運営に携わる仲間を募集しています。

ぜひ、新たな時代の同窓会活動を一緒に考えていきましょう。

ご興味のある方は、同窓会事務局までご連絡ください!



* 「桑沢賞」は、第30回(2023年)以降、2年に1度の開催となりました。

2024 (令和6) 年度

桑沢デザイン研究所同窓会

活動報告・会計報告 (速報)

2024 年 (令和6) 年度活動報告

2024 年

- 4月24日(水) 同窓会ニュース191号発行
- 5月25日(土) 第64回同窓会定期総会および
2024年桑沢新人賞表彰式の開催
(於: WITH HARAJUKU 3F
LIFORK 原宿 LOUNGE)
- 8月3日(土) オープンキャンパスに参加、同窓会活動動画上映
- 8月20日(火) ~ 24日(土)
夏期デザイン講座開催 (於: 桑沢校舎)
- 10月5日(土) ~ 6日(日)
「桑沢祭2024」協賛
第6回チャリティフリーマーケット開催
ワークショップ・特別講座開催

2025 年

- 2月21日(金) ~ 23日(日)
卒業生作品展「桑沢2025」に協賛
- 2月22日(土) 2025年桑沢新人賞選考会
(於: アットビジネスセンター渋谷東口駅前)
- 3月15日(土) 第31回桑沢賞(本賞)審査会開催
(於: ヒカリエカンファレンス)
- 3月18日(火) 桑沢デザイン研究所卒業式に出席
- 3月29日(土) トークイベント「瀬戸内デニムの文脈と未来」を主催
(於: 広島県立美術館)

理事・委員会9回

夏期デザイン講座実行委員会1回

NEWS192 編集会議3回/取材 随時

同窓会ウェブサイト・SNS 更新 随時

桑沢祭に協賛

卒業アルバム制作に協賛



桑沢賞審査会の様子

2024 (令和6) 年度 収支・決算

(単位: 円)

収入の部

科目	2025年度予算	2024年度予算	2024年度決算	差引残高
前年度繰越金	3,573,215	4,416,172	4,416,172	0
終身会費	9,240,000	10,080,000	10,080,000	0
受取利息	5,000	70	4,665	4,595
雑収入	5,000	5,000	0	△ 5,000
収入合計	12,823,215	14,501,242	14,500,837	△ 405

支出の部

科目	2025年度予算	2024年度予算	2024年度決算	差引残高
広報費	2,400,000	2,200,000	2,174,946	△ 25,054
ホームページ運営費	450,000	400,000	174,974	△ 225,026
企画費	400,000	400,000	384,909	△ 15,091
会議費	100,000	200,000	13,530	△ 186,470
通信費	150,000	150,000	130,319	△ 19,681
事務局運営費	3,150,000	3,150,000	3,134,761	△ 15,239
事務消耗用品費	600,000	600,000	176,171	△ 423,829
総会費	1,000,000	1,000,000	919,531	△ 80,469
他団体交際費	700,000	700,000	619,010	△ 80,990
支部費	200,000	200,000	65,070	△ 134,930
リース料・支払手数料	150,000	150,000	133,635	△ 16,365
雑費	40,000	40,000	766	△ 39,234
予備費	160,000	160,000	0	△ 160,000
桑沢賞寄付金	2,000,000	3,000,000	3,000,000	0
基本財産繰入	0	0	0	0
次年度繰越金	1,323,215	2,151,242	3,573,215	1,421,973
支出合計	12,823,215	14,501,242	14,500,837	△ 405

2024 (令和6) 年度 桑沢賞収支・決算

収入の部

科目	2025年度予算	2024年度予算	2024年度決算	差引残高
前年度繰越金	10,456,800	7,155,405	7,155,405	0
桑沢賞寄付金繰入(同窓会)	3,000,000	2,000,000	2,000,000	0
桑沢賞寄付金繰入(夏期講座)	1,715,346	1,857,257	1,857,257	0
雑収入	0	0	10,000	10,000
受取利息	5,000	40	4,467	4,427
合計	15,177,146	11,012,702	11,027,129	14,427

支出の部

科目	2025年度予算	2024年度予算	2024年度決算	差引残高
桑沢賞開催費合計	5,000,000	2,500,000	570,329	△ 1,929,671
次年度繰越金	10,177,146	8,512,702	10,456,800	1,944,098
合計	15,177,146	11,012,702	11,027,129	14,427

2024 (令和6) 年度 夏期デザイン講座収支・決算

収入の部

科目	2025年度予算	2024年度予算	2024年度決算	差引残高
前年度繰越金	1,356,626	1,356,626	1,356,626	0
夏期講座収入	3,400,000	2,800,000	3,496,738	696,738
受取利息	4,000	20	2,193	2,173
その他	0	0	0	0
夏期講座収入合計	4,760,626	4,156,646	4,855,557	698,911

支出の部

科目	2025年度予算	2024年度予算	2024年度決算	差引残高
夏期講座小計	2,200,000	1,615,000	1,783,585	168,585
桑沢賞寄付金(夏期講座)	1,204,000	1,185,020	1,715,346	530,326
次年度繰越金	1,356,626	1,356,626	1,356,626	0
合計	4,760,626	4,156,646	4,855,557	698,911

同窓会役員一覧 (新役員は、第65回同窓会定期総会にて承認されます) ★=新任

会長	八十島博明	特別委員	近藤信一 中西元男 薬師神親彦 山田脩二	名誉会長	佐藤竜平 (研究所長)
副会長	森井久寿生 ★細山歩	委員	新目恵 ★池田系 稲村彰保 小川航司	顧問	浅葉克己 (元所長)
理事 (会長・副会長を含む)			尾形優子 小嶋一夫 後藤和樹		市瀬昌昭 (元所長)
	赤羽なつみ 日下部昌子 田辺千晶		雑賀吉人 ★佐古汐里 澤田昂之介 新保伶奈		原美夫 (元同窓会副会長)
	野口英明 細山歩 本田理恵		鈴木順平 滝口未来 田代卓	相談役	守屋秀之 (研究所事務局長)
	宮澤太地 森井久寿生 八十島博明		富野隆平 畑秀樹 平林千明 房忍 ★堀池仁	事務局	伊草喜久江
	飯内雄美 山越史洋		三上司 宮畑周平 ★宮代美佐江		
	由良万紀子 横森美奈子		森井ユカ 矢島裕丈 山田友香子		
監事	大豆生田守 大槻高康		矢内原充志 吉田仁 渡辺和音		

卒業生作品展 「桑沢2025」が 開催されました

2025年2月21日(金)～23日(日)の3日間、桑沢デザイン研究所の卒業生作品展が開催され、学生たちの力作が並びました。本展は、昼間部3年生の卒業制作〈ゼミナール〉、夜間部2年生の最終課題作品(選抜)、および夜間附帯教育受講生の作品を発表する場として、毎年2月末に開催されています。今年も多くの方が訪れ、熱心に作品を鑑賞していました。

今年のビジュアルは卒業生で非常勤講師(昼間部1年生「基礎デザイン(ファッションデザイン)」担当)の駒形あい先生がデザインしました。

本年度、桑沢デザイン研究所は創立70周年を迎えました。この節目の年に、学生たちはそれぞれの個性を活かし、斬新な作品に挑戦しました。佐藤竜平所長は「ごあいさつ」で、戦後から現在に至るデザインの変遷に触れつつ、「美しさや有意義さを探求する能力は時代を超えて内在する」と述べられ、学生たちの作品にもその探求の跡が表れていると語られました。

作品群は多岐にわたり、デザインの多様性と未来への可能性を強く感じさせる内容でした。

今年は会場が2つに分かれており、新教育施設(2号館)を見逃した方もいたかもしれません。来年ご来場の際は忘れなく!

「卒展 2025」特設ページ

<https://www.sotsuten-archive.kds.ac.jp/2025/>

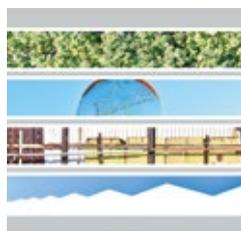




2024年 桑沢新人賞表彰式が開催されました



玉城結羽さん
(浅葉克己+GOO CHOKI PARゼミ)
作品名: コダムシ展



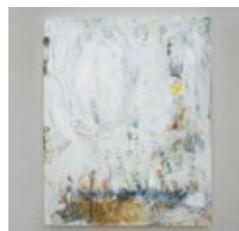
増本里彩さん (飯田郁ゼミ)
作品名: photo music



かおさん (森井ユカゼミ)
作品名: デザイナーズクローン



三木杏珠さん (羽金知美ゼミ)
作品名: 浮動する態



三瀬凌雅さん (大久保裕文ゼミ)
作品名: 鳴り止まない景色



ブルネー・ミュリエルさん
(藤森泰司+篠崎隆ゼミ)
作品名: Voile



佐古汐里さん (比護結子ゼミ)
作品名: 下北沢 Inspire



荒木裕登さん (藤田恭一ゼミ)
作品名: もう大丈夫



周子豪さん (藤田恭一ゼミ)
作品名: 幻覚



李慶花さん (夜間 VD2A)
作品名: ドグラ・マグラ

2024年 桑沢新人賞の表彰式が、2024年5月25日(土) 午後3時から、JR原宿駅前のWITH HARAJUKU 3F LIFORK 原宿LOUNGEにて開催されました。

「桑沢賞」の開催は、2023年の第30回桑沢賞を新たなスタートとして2年に1度のビエンナーレ方式となりましたので、2024年は「桑沢新人賞」のみの選出、表彰を執り行いました。

2024年桑沢新人賞は、2024年2月に開催された卒業生作品展「桑沢2024」での発表作品を対象に、同窓会理事・委員会にて選考され、10名が受賞しました。

表彰式では、八十島会長より各受賞者へ賞状、副賞が手渡され、表彰後は本人による作品紹介のプレゼンテーションが披露されました。

2024年記念Tシャツ

堀ノ内達也さん (2023年桑沢スピリット賞受賞)



祝福の気持ちを込めて、おめでたいデザインを目指しました。トランプのクイーンをモチーフに、桑澤洋子先生のお顔を使わせていただきました。賞を受賞された方に贈るTシャツをデザインさせていただく機会などそうそうありませんので、ちょっと責任を感じております! 新人賞受賞の皆さま、このたびはおめでとうございます!



個々の作品のコンセプトと選評は
こちらでご覧いただけます。



<https://www.kds-doso.net/awards/2024.html>



桑沢デザイン研究所 70周年記念プロジェクト

2024年に創立70周年を迎えた桑沢デザイン研究所では、2024年度を通じて「桑沢らしい」多彩な記念プロジェクトを展開してきました。これらのプロジェクトを通じて、私たちは歴史を振り返ると同時に、桑沢の未来を見据えた新たな機会を創出してきました。

記念すべき周年ロゴのデザインは、第10代所長の浅葉克己先生にご依頼し、学生の手によってモーションロゴとして展開され、ブランディングなどの授業にも活用されるなど、デザイン学校ならではの形で多方面へと発信されました。

また、本プロジェクトの中心となる講演会やワークショップ、展覧会、周年記念パーティーには、国内外から多くのゲストをお迎えし、以下のプログラムを実施することができました。この場を借りて、皆様のご協力・ご参加に心より感謝申し上げます。



Photo : Mari Isobe



Photo : Mari Isobe



Photos : Yusuke Omata

講演会・ワークショップ

4月27日(土)	浅葉 克己 先生 講演会「合同講義 / オープン・レクチャー」
5月20日(月)	Ab Rogers (エイブ・ロジャース) 氏 講演会「Designing the Mind」
6月2日(日)	Ezio Manzini (エツイオ・マンズィーニ) 氏 講演会「デザインで社会を変えられるか_これまでに分かったこと (Design for Social Innovation Lesson Learned)」
7月13日(土)	長谷部健 渋谷区長 × 佐藤竜平 所長 座談会「シブヤの街とデザイン学校が共創できる未来について話そう」
8月3日(土)	こども あそび まっぷ ワークショップ「広告をつくろう」
9月10日(火)	Markus Weisbeck (マーカス・ワイスベック) 教授、Vera Kunz (ベラ・クンツ) 先生 オープン・レクチャー「ALL OVER THE BAUHAUS 1850-2024」
9月11日(水)	Markus Weisbeck (マーカス・ワイスベック) 教授、Vera Kunz (ベラ・クンツ) 先生 オープン・ワークショップ「Exquisite corpse No.1 THINGINESS: 物の存在感」
9月12日(木)	Markus Weisbeck (マーカス・ワイスベック) 教授、Vera Kunz (ベラ・クンツ) 先生 オープン・ワークショップ「Exquisite corpse No.2 GENRES: ジャンル」
9月18日(水)	Social Kids Action Project ワークショップ「渋谷フェスティバルプロジェクト ポスター制作」
10月12日(土)	Atelier Oi (アトリエオイ) 代表 Patrick Reymond (パトリック・レイモン) 氏 講演会「FORM FOLLOWS EMOTION 創造、それは感情を追うこと」
10月19日(土)	大美賀均 監督作品「義父養父」上映会
10月26日(土)	coconogacco × 桑沢デザイン研究所 交流ワークショップ 山縣 良和 氏「私とは何か？ 曖昧な自己、統一性のない自己、増殖する自己の時代を生きる」
11月16日(土)	TAKT PROJECT 吉泉聡 氏 × 佐藤竜平 所長 特別対談「デザインの下半分 / 上半分」
11月30日(土)	体験会「Naef : ネフの木製玩具であそぼう」
12月6日(金)	川上典李子 先生 × 宮前義之 先生 対談「制作の現場 / オープン・レクチャー」
12月7日(土)	Kim Do-Hyung (キム・ドヒョン) 氏 特別講演会 映像出演・服部一成 氏「桑沢 × TOKYO TDC / オープン・レクチャー」
12月14日(土)	山口信博 氏「ぼくの始末書」刊行記念講演会

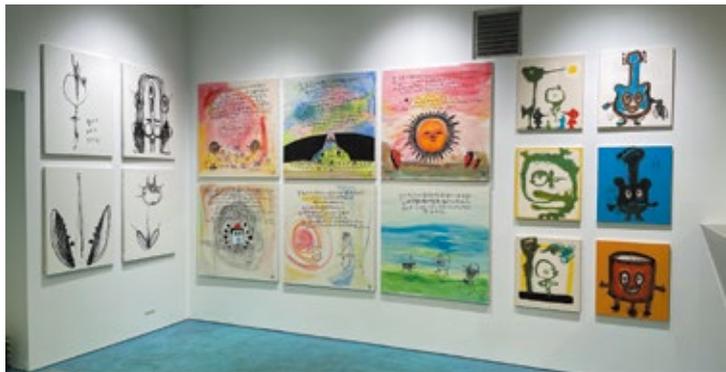
展示・展覧会・パーティー

3月12日~5月20日	「学校案内書アーカイブ 1954-2024」くわまど
5月22日~6月15日	「VD 分野 夜間部 2年生授業課題 70周年記念ポスター」くわかべ
5月22日~6月15日	「VD 分野 昼間部 3年生授業課題 70周年記念モーションロゴ+グッズ」くわまど
7月10日~8月10日	「オリンピック・パラリンピックと桑沢デザイン研究所」くわかべ + くわまど
8月3日~9月7日	「桑沢 教育 研究 発信」桑沢学園 新教育施設 1F イベントスペース + B1 イベントスペース
11月16日(土)	「メタリック・パーティー」

以上の詳細についてはWebsiteより
ご確認ください。



安齋肇個展「〇〇〇〇」



桑沢賞表彰式の司会でお馴染みの安齋肇さん（1部49L2B）の個展が、2024年3月21日から4月20日まで、中央区勝どきの倉庫3階にあるギャラリー @btfで開催されました。

毎年、各地で幅広い分野で活動をされている安齋さんですが、今回のテーマは「〇」。キャンバスに描いた絵を中心とした展示で、大きな作品に挑戦されたそ

うです。ギャラリー内には、モノクロームの大作と、愛らしくカラフルな作品が並び、自然や音楽から得たインスピレーションやエネルギーを感じさせるもの、そして安齋さんが抱くモヤモヤや「LOVE & PEACE」的な思いが交錯した作品が展示されました。単に楽しく明るいだけではない、少しビターな要素が感じられる、味わい深い安齋肇ワールドでした。

作品展示のほか、ドラムとライブペイントによる「ANZAI FURUTA（安齋肇×古田たかし）生音生絵〇〇〇〇対決」、みうらじゅんさんとの「生〇〇〇〇対談」、さらには安齋肇さんの逆アートオークション「〇〇ビーズ」など、趣向を凝らしたコラボレーションが行われ、多くのファンを魅了しました。

このコラボレーションはYouTubeで視聴できます。

<https://www.butterfly-stroke.com/at/anzaihajime/>



「写真植字の百年」展

「写真植字」は、今の若い世代には馴染みがないかもしれませんが、年配のグラフィックデザイン関係の人にとっては非常にお世話になり関心があるものでした。そんな「写真植字」の歴史にスポットをあてた展覧会「写真植字の百年」展が2024年9月21日から2025年1月13日まで東京・文京区のTOPPAN本社ビル1階にある印刷博物館で開催されました。

現在のようにDTPでデジタルフォントが用いられる以前は、印刷文字は活字が写真植字が主流でした。中でも、日本語においては膨大な金属活字を用いる活版印刷に代わって、写真工学的な原理を使って印字する写真植字が登場したことは、活版印刷の煩雑さを解消する画期的な出来事でした。写真植字はその利便性によってグラフィックデザ

イン環境の改善をもたらしました。さらに、多くの美しい書体の開発が容易になり、多様な書体が印刷を彩るようになりました。

この展覧会は、写真植字の発明から100年を記念し、活版印刷からデジタルフォントへと文字印刷の技術的、表現的な橋渡しを担ったこの写真植字について、その歴史、役割、仕組み、さらには活字時代には少なかった多様な書体デザインについて紹介したもので、写真植字



の機械の開発の歴史からグラフィックの作品、新書体の変遷を通して、当時主流だった写真植字について、改めてその大きな役割を再認識した内容でした。

なお、展示の中で写真植字とデザインについてグラフィックデザイナーの太田徹也さん（1部37L3GD）が映像で熱く語っていたのが印象的でした。



木村勝 生誕 90 年記念企画展

「KATSU KIMURA BOX WORKS 90th Anniversary Exhibition」

パッケージデザイナー・木村勝の生誕 90 年を記念した企画展が、2024 年 11 月 25 日から 12 月 1 日まで表参道の Gallery 5610 にて開催されました。

木村勝さんは、パッケージデザインの先駆者として新しい視点や表現に挑み続けてきました。本展は、彼の功績を若い世代に紹介するとともに、これからのデザインのあり方を探るヒントとなることを願い、桑沢デザイン研究所専任教員の永沼真一郎さん（1部H09L2A）の発案により、木村さんのご家族や各界の関係者の協力のもとで実現しました。

木村勝さんは、桑沢デザイン研究所で長年にわたりパッケージ研究科の講師を務め、多くの後進を育成しました。2009 年には、「桑沢特別賞」を受賞しています。

今回の展示では、商業デザイン・CI デザイン・商品開発の分野を画像上映や書籍で紹介し、立体作品はパッケージデザインの新たな可能性を追求した作品を中心に展示されました。特に 1968 年



銀座山野楽器ホールで開催された伝説的な展覧会「PADICO 展」のポスターや、穴のあいたペーパーバッグ「ピントールバッグ」、花びらが連なり六面体を形成する「はなびらの箱」、さらに 1998 年に発表されたアクリル象嵌の箱「KATZ DESIGN BOX」など、現存する貴重な作品が並びました。

パッケージ作品の宿命である紙の経年劣化を超えて、明るくリズムカルな作品群は今でもなお新鮮に感じられるとの声が多く聞かれました。桑沢の卒業生や学

生をはじめ、多くの来場者が訪れ、木村勝さんの発想力とデザインの多様性を再認識する機会となりました。

<https://deska.exblog.jp/37060893/>



青木健二さん「still life」展

2025 年桑沢賞受賞
おめでとうございます！



Photo by Tetsu Kubota

スタイルライフ写真を専門とする写真家青木健二さん（2部63VD2B）の写真集『still life』が 2024 年 8 月に FRAGILE BOOKS より出版され、それに伴う記念展示が 2024 年 8 月 9 日から 9 月 1 日まで東京・恵比寿の書店「POST」にて開催

されました。

書店の奥、天窓から光が差し込む静かなギャラリーの壁面には青木さんが撮影した写真と撮影に使用された石膏、中央には出版されたばかりの 6 冊組の写真集が置かれ、空間そのものが青木さんの写真のような静謐な空気に包まれていました。

青木さんは桑沢デザイン研究所で Bauhaus のデザイン哲学に出会い、とりわけカジミール・マレーヴィチの「無対象の世界（NON OBJECTIVE WORLD）」

という芸術哲学に大きな影響を受け、これまで写真家として独自の世界を築いてきました。

2008 年ニューヨークのフォトグラファージャーエントからオファーを受け、2010 年渡米。『The New York Times Magazine』『TIME』の表紙など数多く手がけ、2022 年に帰国、現在東京を拠点に活動しています。

本書のアートディレクション・デザインは山口信博さん（1部48L1B）が担当し、青木さんの写真世界を「本」という物体として新たな命を吹き込みました。

106 年前に産声をあげた Bauhaus の思想が時空を超えてこの現代に再び蘇ったような素晴らしい展示でした。

青木健二 <https://www.aokiphoto.com/>

矢内原充志さん 横浜トリエンナーレにて 作品を発表

矢内原充志さん(1部H07D2A)の作品が、2024年3月15日から6月9日まで、みなとみらい線「新高島駅」構内の「BankART Station」で展示・発表されました。

これは、3年に1度開催されるアートの祭典「横浜トリエンナーレ」のサイトの一つであるBankART Stationのテーマ「Urban Nesting/再び都市に棲む」の一環として企画されたものです。

——「うつむいて歩こう」という作品タイトルを付けたのは、うつむいて撮った都市のビジュアルがモチーフになっているからです。親しい人が亡くなり浮かない気持ちだったとき、横浜の街をうつむきながら歩いているうちに「この下は海だった」「土だった」「いろんな時期があった」と、

想像が膨らみました。

撮影した地面の写真を並べて、能装束をイメージしながら2枚を入れ違いにしたり、グラフィックパターンを加えたりすることで、横浜を感じさせる幾何学模様のテキスタイルをデザイン。それらの布で12着の洋服を、今回は全て自分で製作しました。(写真1)

一方で、長年ファッションに関わる中で、「これ以上新しいものは必要か?」という疑問に取り憑かれました。新しいものを作る前に、これまで過剰に作り過ぎてきた生地を再構成するメソッドが必要だと考え、用いたのは「シュレツダリングの手法」です。

倉庫に眠っていた過去に使用した膨大な生地を、全部同じ大きさに断裁し、全部に同じ



柄をプリントして、再構成したのが105枚。その中から11枚を選び、縫い合わせて作品にしました。故郷の今治地方ではフェイスタオルは最も安価にプリントできる規格。そんな産地背景も利用して、タオルの量産ラインに僕の過去の生地を入れてプリントしました。(写真2)

私が「再び都市に棲む」ためには「再び作る」ことが必要。「再び作る」ためには、作ったものを壊して過去の素材を再利用・再構成し、新たな価値を創造することが必要だと思ったのです。(矢内原充志さん談)

駅構内の高い天井が心地良い空間に映えるように展示された作品には、矢内原さんの思考のプロセスが様々な形で表現され、見どころ満載の展示でした。

矢内原充志さん

(有)スタジオニプロール代表取締役/ファッションデザイナー/アートディレクター

桑沢在学中にブランドを立ち上げ、東京コレクションにも参加。その後海外の舞台衣装のデザインなど活動の幅を広げ、近年は国内外様々なプロジェクトのアートディレクションを手がけている。



金子辰也さん 新作ジオラマ作品展「カモメ」

プロモデラー金子辰也さん(1部50L2B)の初個展「カモメ」が2024年9月21日から30日まで、渋谷区神南のオ・タン・ジャディスギャラリーで開催されました。

7つの新作はコンセプトアルバムののように「カモメ」をテーマに構成され、物語を紡ぐような展示となりました。作品の精巧さはもちろん、制作過程も惜しみなく公開。メモやエスキースを展示し、海外製プラモデルの精度の低さをどう補い、手を加えて、見応えあるジオラマへと仕上げたかを解説するなど、来場者を引き込む丁寧な説明も印象的でした。

まず表現したいものありきで、そこから理想の形に持っていくために試行錯誤を重ねた金子さんは、今回新たにジオラマ作りに“日本画の技法”を取り入れ、これまでとは異なる海の表現に挑戦。

死生観をも感じさせるテーマが随所にちりばめられ、“人は海へ還り、また海から還ってくる”というコンセプトが、ジオラマの奥深い世界をより引き立てていました。

どの作品もじっくりと向き合う価値のあるものばかりで、圧倒的な情熱と探究心が詰まった、見応えのある個展でした。



渡辺和音さん 「DESIGNTIDE TOKYO 2024」のアートディレクション

「DESIGNTIDE TOKYO 2024」が2024年11月27日から5日間、東京・日本橋三井ホールにて開催されました。

DESIGNTIDE TOKYO は、現代社会におけるデザインの役割を再考し、新たな潮流(=TIDE)を生み出すことを目的として、2005年から2012年までの毎秋、開催されてきた東京を代表するデザインイベント。今回は、メンバーを刷新し12年ぶりの再始動でした。

会場を訪ね、イベントに関わるビジュアル全般のアートディレクションを手がけた渡辺和音さん(1部H16L系3B)にお話を聞きました。

入口で目に飛び込んできたのは大きなDESIGNTIDE TOKYOの文字と巨大化したバーコードのような壁面のビジュアルデザイン。メイン会場へと歩みを進めると、文字などの見え方が刻々と変化し躍動感を感じます。

——デザインの潮流を表現するために、目指したのは「身体を使ってグラフィックを体感してもらう」こと。

スキャニメーションの手法を用いて、人の視点が変わると見え方が変わる、身体を



上段と左下：DESIGNTIDE TOKYO 2024

動かすことで驚きが出るようなグラフィック展開を考えました。イベントそのものを体感させたデザインです。一連の同じ考え方で、会場の受付から案内板、会場内サイン、webサイトや紙媒体に至るまで、トータルにデザインしました。(渡辺和音さん談)

メイン会場では、国内外のデザインシーンで活躍するクリエイターのプロダクトやアイデア、若手作家の作品などが数多く紹介され、まさに新しいデザインの潮流を肌で感じられるイベントでした。

<http://designtide.tokyo>

林青那さん 銀座三越にて個展を開催

2025年2月5日から11日まで、林青那さん(1部H21VD3B)の個展が東京の銀座三越で開催されました。会場には額装された作品の他、板絵や小さなカードサイズの作品などもあり、訪れた方々も一つ一つを丁寧に鑑賞されていました。

林さんは卒業後にイラストレーターとして広告や書籍を中心に活動し、2014年

にHB FILE COMPETITION vol.24にて大賞(鈴木成一賞)を受賞、2016年からは画家としての活動を開始し、墨汁と筆による抽象画などを国内外で発表し続けています。

林さんの作品は「黒」を基調としていますが、その表情はとても豊かで、支持体の上で踊るような筆致は初めて「描く

ことを獲得した子供のような自由さと人間が本来持っている原始的な「生命力」の両者を感じさせる独自の作風が最大の魅力です。

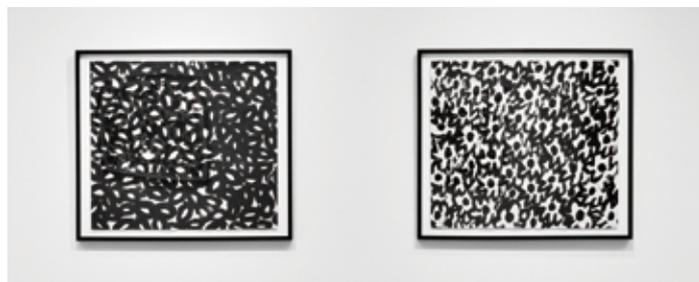


2021年には作品集「KUROMONO」を出版し、それまでに描かれた作品が多数収められ林さんの独自の世界観が一望できる素晴らしい書籍となっています。

取材の最後に林さんにご自身の創作について「好きに描いてるだけですから。」と静かに話されました。その控えめな言葉の奥にある秘められた意志のようなものを感じ、心地よい余韻に包まれながら会場を後にしました。



作品集「KUROMONO」



AONA HAYASHI.COM <https://www.aonahayashi.com>

磯部万里さん 写真展「高井戸の日常 vol.2」



2024年10月5日と6日、磯部万里さん（1部H26SD3E）の写真展「高井戸の日常 vol.2」が、高井戸地域区民センターで開催されました。

高井戸に住んで4年余り。表側の環状八号線の都会的な風景と、その裏側の住宅地ののどかな風景の対比が面白い、高井戸の町が大好きだという磯部さん。

日々変わっていく高井戸の景色を忘れないように写真を撮っているそうです。



磯部さんは現在、桑沢デザイン研究所の広報担当として桑沢の魅力伝える写真を撮影・発信しています。

写真展では、その町に住んでいるからこそ撮れる、四季折々の色や、何気ない日々の一瞬を切り取った宝物のような風景が紹介され、訪れる人の目を楽しませていました。

森井ユカさん 松本沙希さん ネオ妖怪展「パラレル」

2024年12月6日から15日まで代官山のギャラリー「子の星」にて森井ユカさん（1部60L2A）と、その教え子でもある松本沙希さん（2部H19VD2A）が“ネオ妖怪展「パラレル」”を開催しました。

立体造形作家でイラストレーターの森

井さんの今回のモチーフは、季節の微妙な移ろいを表した言葉「七十二候」。樹脂でひとつひとつ丁寧に作られた72体のネオ妖怪たちがつぶらな瞳で迎えてくれました。

チェコ在住のイラストレーターである



森井さん（左）、松本さん（右）

松本さんはチェコやその他のヨーロッパの国々、そして日本に古くから伝わる妖怪にインスピレーションを得てシルクスクリーンやリトグラフでカラフルな独自の世界を表現しました。

手法は違ってもどこか響き合う心地よいコラボレーションでした。

池田系さん イラスト展／カレンダー原画展

2024年5月、福岡県北部、広大な麦畑の中に建つカフェ「HANA COFFEE」のギャラリースペースで池田系さん（2部2021VD2A）のイラストの展示会が行われました。春から初夏にかけて傍に咲く野の花たちは鉛筆と水彩のみのシンプ

ルな画材で描かれ、特に原画から制作されたオリジナル切手には多くの方が興味を示していました。

また9月には福岡市南区のパン屋「ベーカリータツヤ」では2度目になるカレンダーの原画展を開催。2025年の



カレンダーのテーマは野菜と果物。「小さなお子さんにも楽しんでほしい」という思いから、モチーフのバナナや苺な

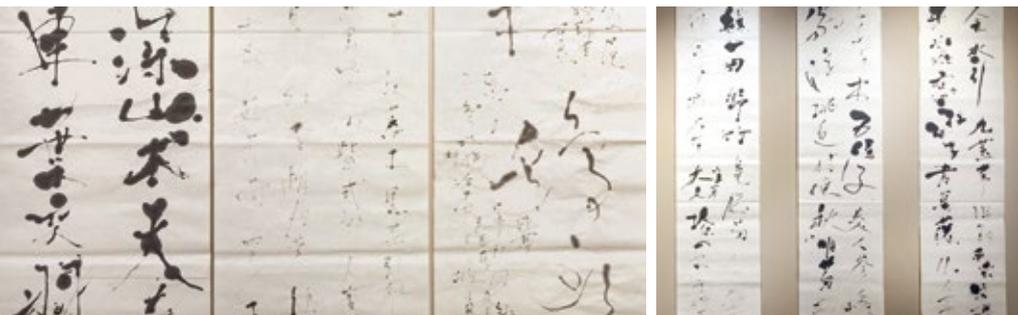
ど、身近にあるモチーフはアクリル絵具で丁寧に描かれ、パン

を求めて来られたご家族づれもしばし足を止めイラストをご覧になっていました。

池田さんはいくつかのお仕事をした後、デザインを基礎から学ぶため上京、2020年に夜間部に入学しました。昨年はイラストの展示のほか手芸作家とのコラボレーションやメキシコで撮影した旅の写真展を開催するなど、ジャンルを超え幅広く活動しています。

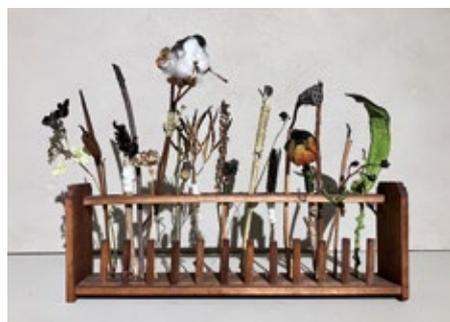


町田かおるさん 個展「さんやそうの筆」



グラフィックデザイナー、町田かおるさん(2部H18VD2A)の「さんやそうの筆」が、2024年11月8日から19日まで、松陰神社近くのhocギャラリーで開催されました。

桑沢で同級生だった旦那さんと共にデ



使用した山野草

ザイン事務所「さるいのデザイン」を構える町田さんは、デザインのみならずイラストも、さらに書道準師範の腕を活かした書の仕事でも活躍するオールラウンダー。今回はちょっと肩の力を抜いて、山野草＝野生の草花を筆代わりにさまざまな表情の文字を書き展示しました。南蛮繁縷、辛夷、深山木天蓼(ナンバンハコベ、コブシ、ミヤママタタビ)……大判の半紙に書かれた文字は、すべて植物の名前です。

普段の仕事で制作する書はそのクライアントや商品の意図を汲みながら書くものですが、今回の作品は気の赴くままに

書いた文字。それでいて、筆として使用した18種の草花はそれぞれの形や当たりどころによって墨が溜まったり擦れたり意図しない形になり、どんな文字が現れるのかワクワクしながら書いたそうです。自身のライフワークにもしたいという山野草の書は、来春も展覧会を開催予定です。

さるいのデザイン：<https://saruino-design.com/>



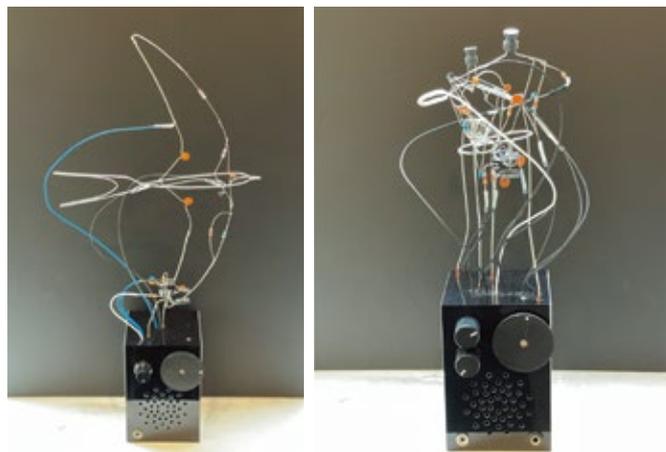
普段の仕事でイラスト・書・パッケージデザインを手掛けた京都・南山城村「山のテーブル」の和紅茶

高鳥修二さん 造形展「翼のある日／I will wings」

少年時代から昆虫や鳥、飛行機、ロケットなど空を飛ぶものに魅了され、ゲルマニウムラジオを作っていた高鳥修二さん(1部48D3A)。新潟の小さな町で電波を求めていた少年の夢は、60年の時を経て美しい造形作品となりました。その展

覧会が2024年11月25日から12月1日まで、六本木のストライプハウスギャラリーで開催されました。

本展のメインテーマは「翼」。ワイヤーを使った美しいフォルムにラジオ回線が組み込まれ、どこからか電波を受信し微



「swallow 3」(AM Receiver)

「Dance 2」(FM Receiver)

かな音を奏でる仕掛けになっています。その微かな響きは訪れた人々を空想の世界へ誘ってくれます。

高鳥さんは新潟から上京後、桑沢のドレス科で学びました。ファッションイラストレーターの矢島功さんのクローキの講義は、高鳥さんにとって後の仕

事に大きな影響を与える貴重な経験となりました。

卒業後はアパレル業界を経て、デザイン企画会社で自動車や飲料などの大手企業の商品開発に携わり、1991年に自身の会社を設立。化粧品をはじめ多岐にわたるデザインワークを手がけました。

2020年以降、コロナ禍を機に会社を休眠し、自身の創作活動に専念。「今は一番好きなことを楽しみ、美しいと思うものを作る日々」と語る高鳥さんの夢は、まだまだ続きます。



三上司さん 山口舞さん 岸さゆみさん

PILOT から登場のアパレルブランド YUDANGI を手掛ける



発売を記念して、2025年1月に期間限定で、銀座でポップアップストアが開催されました。その後、2月3日よりPILOTが新たに開設したWEBサイト「未来創造実験室『PILABOT（ピラボット）』」にて販売されています。

>> PILOT「YUDANGI」<https://www.pilabot.jp/project/yudangi>



筆記具メーカーのPILOTが、「人と創造力をつなぐ」をテーマとした事業拡大の一つとして、衣服のブランド「YUDANGI（ユダンギ）」を立ち上げました。

三上司さん（1部H15D系DD3A）と、山口舞さん（2部H16FD2）がデザインを、グラフィックを岸さゆみさん（1部H15L系VD3B）が担当しました。

——YUDANGIのコンセプトは「創造

のための日常着」。思わず「油断」してしまうほど着心地が良いのに、オン・オフ問わず様々なシーンに合う、しっかり感と着回しの良さを兼ね備えています。

素材には肌触りが良く柔らかさと光沢感のある高品質な「ウール」を使用。デザインはシンプルで、ストレスの少ないゆったりとしたシルエットが特長です。

また、確かな品質にこだわり、素材選び



アイテムはベーシックなTシャツ、長袖シャツ、ワイドパンツなど6種類。色はベージュ、ブラック、ネイビー、チャコールで展開。（アイテムによる）

から生地作り、縫製・加工まで全て国内で行っています。（株式会社パイロットコーポレーション 未来創造室 井口幸子さん談）

三上さんと山口さんは、男女それぞれの視点で生活の中での気づき等を元に、動きやすさや細部に気を配り、YUDANGIのコンセプトを具現化。息の合ったチームワークで、岸さんはその世界観をビジュアルで表現しました。



山口さん

岸さん（左）、三上さん（右）

児玉篤司さん 第91回毎日広告デザイン賞 優秀賞を受賞

児玉篤司さん（1部2020VD3B）が、第91回毎日広告デザイン賞の一般公募・広告主課題の部で優秀賞を受賞しました。受賞作品は象印マホービンの「企業広告」30段カラー3点シリーズで、日本デザイ

ンセンターに所属する児玉さんがデザインを、瀧本瑞希さんがコピーを担当しました。この賞は1931年に設立された歴史ある賞で、今回の一般公募・広告主課題の部には744点の応募があり、その中から厳正

な審査を経て13点が入賞作として選ばれました。

表彰式は2024年4月17日に東京都文京区のホテル椿山荘東京で開催されました。



受賞作品「象印マホービン『企業広告』30段カラー3点シリーズ」



Photos：桑沢デザイン研究所 Web サイトより引用

「JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024」で 桑沢デザイン研究所の夜間部の学生が多数受賞



伊藤健
／銅賞

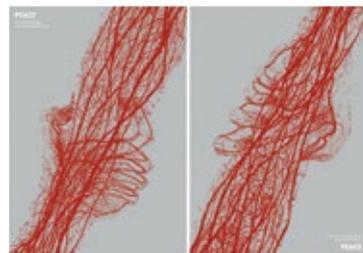
桑沢デザイン研究所の夜間部の学生たちが「JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024」で素晴らしい成果を収めました。

伊藤健さん（夜間部ビジュアルデザイン専攻1年在学生）が銅賞を、上田康博さん（夜間部ビジュアルデザイン専攻2年在学生）が審査員賞である佐藤卓賞を、宮崎晃大さん（夜間部ビジュアルデザイン専攻2年在学生）が協賛企業特別賞のターナー色彩賞をそれぞれ受賞しました。さらに、崔翔鈞さん（夜間部ビジュアルデザイン専攻2年在学生）、坂梨麻理奈さん（夜間部ビジュアルデ

ザイン専攻2年在学生）、松丸夢佳さん（夜間部ビジュアルデザイン専攻2年在学生）、村山佳奈美さん（夜間部ビジュアルデザイン専攻2年在学生）の4名も入選を果たし、桑



上田康博／審査員賞 佐藤卓賞



宮崎晃大／協賛企業特別賞 ターナー色彩賞

Photos：桑沢デザイン研究所 Web サイトより引用

沢デザイン研究所の学生たちの活躍が際立ちました。

今年のアワードのテーマは「Peace」で、国内外の優れた若い才能の発見と顕彰、およびグラフィックデザインの新たな発展と進化を目的として開催されました。高谷廉先生の指導のもと、学生たちは創造性豊かな作品を制作し、その成果が認められました。

受賞作品は2024年11月27日から12月9日まで国立新美術館で展示され、多くの人々に鑑賞される機会を得ました。

受賞作品はコチラからご覧になれます

<https://www.kds.ac.jp/designnews/id1662/>

飯塚鈴さん 2024年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選

飯塚鈴さん（1部2023PD3D）が、卒業制作として取り組んだ作品【gu-mo】が2024年度グッドデザイン・ニューホープ賞「物のデザイン部門」で入選しました。当作品は空中を浮遊しながら集まって、日陰を作り出すというバルーン型ドローンで、昨今の夏の炎天下という課題に対して向き合った作品となっています。応募総数606点の中から選出され、

「素直に嬉しかった」と語った飯塚さんに、一番苦労した点を伺ってみると、「卒制として制作する際、完全オリジナルの形状をバルーンで作ってくれる業者がなかなか見つからず苦戦した」とのことでした。現在はおもちゃのデザインに関わる仕事をしている飯塚さんですが、自由な発想で可愛くも機能性もあるデザインを考えるというこの時の経験は、今の仕

事でも活かされていると言います。

飯塚さんが送り出す作品たちが、どこかで誰かの希望（Hope）になっていくことを心から願っています。



飯塚さんが作成した gu-mo のコンセプトシートとメインビジュアル



卒業制作展 2023 にて、実寸大モデルを前に作品の説明をする飯塚さん

桑沢スピリットを発揮して各分野で活躍する同窓生をご紹介しますコーナー
今回も才能あふれる素敵な同窓生たちをご紹介します

デコレーター クリオマニファクチャー株式会社 代表取締役

莊原陽子さん

80歳で現役！デコレーターの草分け

東京・新宿伊勢丹の地下1階入口前通路のショーウィンドウ。季節を彩るイベントに合わせて入れ替わる華やかなディスプレイを楽しみにしている方も多いと思います。

そのディスプレイを40年間手がけているのは莊原陽子さん（1部40L2B）。

デコレーターの草分け的存在で50年以上のキャリアを持つ莊原さんにお話を伺いました。



——莊原さんのお仕事のモットーは？

「商品を輝かせる」のが私の仕事の使命だと思っています。リアル店舗に来てくださるお客様に楽しんでいただきたい。ウィンドウの中に、クスッと笑えるようなポイントを作り、お客様との距離が縮まるようなウィンドウを目指しています。ディスプレイするウィンドウが8個あれば、商品の配置も、ストーリーを考えて、1つ見たら続きも見たいくなるような、8コマのドラマを作ろうと心がけています。

「商品に命を吹き込み、輝かせるデコレーターの仕事は楽しい。好きな仕事をこれほど長く続けられたのはとても幸せなこと。」と語る莊原さん。デコレーターという魅力的な仕事があることを、同窓生の皆さんにも知ってほしいそうです。

お近くに行かれたら、ぜひ素敵な物語をご覧ください！

莊原陽子さん

日本VMD協会所属／商品装飾展示技能士1級（国家資格）



2025年バレンタインデーのウィンドウディスプレイ（8コマのうちの4コマ）
プレゼントがベルトコンベアーで運ばれていく様子を表現した

——どのような経緯でデコレーターに？

桑沢ではグラフィックデザインを専攻しました。デコレーターになったのは、学校に募集がきていたディスプレイの会社に入ったのがきっかけです。机に向かってじっと何かをするよりも動き回る方が向いているし、ファッションが好きだったから。当時はデコレーターという名称もなかった頃で、新しい仕事でした。

その会社は人材育成に熱心で、フランスから専門家を招いて、色々なテクニックを学ばせてくれました。

その後、松屋の装飾部門に移った会社の先輩に誘われて、松屋のウィンドウディスプレイを8年手がけました。

30代前半にデコレーターとして独立。



2024年クリスマス 壁面は（ミナペルホネン）のイラスト

それから約40年、新宿伊勢丹のディスプレイに携わっています。

はじめの35年は1階の明治通り側のウィンドウや店内ステージ等のディスプレイに携わり、その後は約5年、地下の入口通路のウィンドウを手がけています。

——デコレーターのお仕事の内容をおしえてください

VMD（ビジュアルマーチャндаイジング）の一環ですね。でも商品を選ぶ力も必要なので、MD（マーチャндаイジング）の要素もあります。

伊勢丹のディスプレイは、チームで作り上げています。伊勢丹本体と施工会社（デザイナーが所属）と一緒に打合せをして企画が決定。デザイナーからイメージスケッチを受け取ってその期間のテーマを受けて約3週間～1ヶ月で飾る商品を決めて、ブランドに交渉して、商品を借りて、実際に飾るところまで行います。（全館からの商品のピックアップ～フィニッシュは莊原さんに一任されているそうです！）



2024年ハロウィン ウィンドウの一つひとつに物語がある

ヒット続出！玩具業界のトップランナー

毎日の生活に夢とワクワクを届ける玩具の世界。平林千明さん（1部H11L研ID）が入社2年目にして手掛けた、家庭で巨大なプリンを作るキット「ギガプリン」（2008年／その後「超ギガプリン3.0」（2015年）に進化）は当時大きな話題を呼びました。その後数々のヒットを経て発売されたのが、日本の夏の過ごし方を変えたともいえる代表作「そうめんスライダー」シリーズ。



流しそうめんをお家の中で、家族の夢を叶えた「そうめんスライダー エクストラ」（2016年）

ズ。流しそうめんをよりエキサイティングに楽しめるこの商品は、2016年の発売以降も、次々と新たなバージョンが登場し続けています。他にも卵の白身を電動で泡立てる「究極のTKG」（2017年）や、プロの握りを再現する「究極のおにぎり」（2023年）など食をテーマにした玩具の開発が続き、業界を牽引するトップランナーとして活躍中です。

学生時代は桑沢の近くの小さな映画館や輸入雑貨の店、アートブック専門の書店に入り浸って世紀末の渋谷を満喫していたそうです。一方で様々な知識を吸収するため、同窓会主催の「桑沢デザイン塾」の運営にも参加。そのときのゲスト、漫画家・松本零士さんとの会話で「子供たちが大切に胸に抱きかかえるよ



千明さんが手にしているのは「究極のおにぎり」（2023年）

うなおもちゃを作ってください」と話しかけられたことは、今でもふと思い出すそうです。

千明さんのこれからの仕事の目標は「子供の心に残る商品を作ること」。その想い、世界中に届きますように！

（記：森井ユカ）



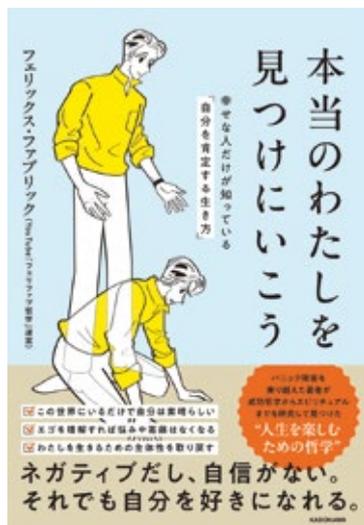
「究極のTKG」（2017年）（左）、普通のプリンの30倍、子供たちの夢を叶えた「超ギガプリン3.0」（2015年）（右）

『楽に生きる研究家』

フェリックス・ファブリック 大森羽那さん

独自の哲学理論で「楽に生きる」を研究

『楽に生きる研究家』を名乗り、桑沢ではグラフィックを専攻したイラストレーター



初版には手違いで挿絵がラフで掲載されてしまった箇所があります。版を重ねると価値が出るかも？

ターでもあるフェリックス・ファブリックこと大森羽那さん（2部H30VD2B）が初の単行本「本当のわたしを見つけにいこう」（KADOKAWA）を上梓しました。

『楽に生きる研究家』という不思議な仕事を生み出したファブリックさんは、独自の「フェリファブ哲学」を築き、You Tubeや個人セッションで発信しています。

「フェリファブ哲学」が提唱していることはとてもシンプル。「自分」を無条件に肯定すること、そこに存在するだけで価値のある「自分」を認めることで人生は格段に楽に生きられるというものです。著者自身による優しい線のイラスト



と共に、哲学という一見難しそうな事柄を丁寧な言葉とわかりやすい例えを使って読者に届けてくれています。桑沢でのプレゼンの数々、言語化訓練の数々が、言葉で人に伝える仕事ができている土台を作ってくれたとのこと。

また、心地よい声で「楽に生きる」ためのメソッドを説いてくれるYou Tubeも合わせて見てみると、より理解が深まることと思います。動画編集でも、授業でグラフィックソフトなどに触れたことが大いに役立っているそうです。

山田脩二さん「『日本村』2022-2024 島」出版記念イベント

山田脩二さん（1部34L研A）の最新写真集「カラー版『日本村』2022-2024 島」の出版記念トークイベントが、2025年2月16日に東京・恵比寿の「写真集食堂めぐたま」で開催され、世代を超えた多くの人々で賑わいました。

本作は、コロナ禍以降に瀬戸内海を中心にとした50を超える日本の島々を巡って撮影されたものです。全編カラーで構

成され、島の風景や情感が鮮やかに写し出されています。山田さんのカメラワークは、光と影のコントラストを巧みに操り、島の立体感や奥行きを強調し、雲や波の動きを捉え時間の経過を感じさせる表現が特徴的です。島の日常風景を捉えた写真からは、そこに住む人々の生活や文化をも感じることができます。

イベントでは写真評論家の飯沢耕太郎



さんとの対談が行われ、淡路島での生活が本作の原点となったことや、瓦職人「カワラマン」としての経験が写真家としての視点に与えた影響などが語られました。写真集の販売も行われ、多くの方がサインを求めて列を作っていました。85歳という年齢にもかかわらず、精力的に活動しており、そのバイタリティに感銘を受けた参加者の声もありました。山田さんは「島には独特の景観・島影・情感などが漂っている。その魅力的なエネルギーが今、残念ながら退化・風化し続けている」と語っています。

この写真集は日本の島々の現状を記録するだけでなく、島国である日本そのものを見つめ直す機会を提供する貴重な作品です。



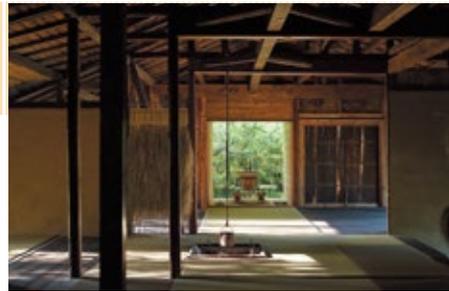
団塚栄喜さん「不時泊」プロジェクト始動

MIYASHITA PARK（東京都渋谷区）などのランドスケープデザインで知られる“風景司”団塚栄喜さん（2部63SD2）が新たな滞在型アートプロジェクト「不時泊」を立ち上げ、2024年6月より順次開業しています。

場所は大分県竹田市「PERMA（パーマ）」、竹田市久住高原「IROA（色空）」、竹田市神原「LUTEN（流転）」、大分県佐伯市大入島「HASO（波礎）」、そして神奈川県横須賀市「IKUSA（居草）」の

5か所。多様な「風景」と向き合うことができる1日1組限定の実験的宿泊施設です。それぞれ元からある家屋や店舗を再生させた建物、必要最低限の設備だけのテント型シェルター、あるいは海に浮かぶ「筏」の上のガラス張りの小屋など、その周りの空間をも含めた異なる5つのコンセプトを表現しています。

大分県の小さな島に生まれ、大自然に囲まれて育った団塚さんのデザインは、すべて幼少期の原体験から出発していま



「IKUSA（居草）」神奈川県横須賀市

す。この「不時泊」プロジェクトも、日本の原風景に強く惹かれた団塚さんが、その土地に触れ、自然と共存、共鳴しながら約8年かけて完成させたものです。また一つ自らのテーマを大きく発展させる仕事となりました。

Photos : Sato Shinichi



「HASO（波礎）」大分県佐伯市大入島

Check it!

2024年6月、団塚栄喜さんがランドスケープを担当した広島県大竹市の下瀬美術館（SHIMOSE ART MUSEUM）が、ユネスコが創設した建築賞「ベルサイユ賞」の「世界で最も美しい美術館」7施設の一つに選出されました。



伊勢功治さん「トトロの住む家」の写真集を出版

東京・杉並区にある「トトロの住む家」をご存知ですか。この家は、スタジオジブリの宮崎駿監督が仕事場近くの住宅地を散歩していると、バラや庭木に埋もれるように、ひっそり立っている赤い屋根と白い窓枠の平屋建て洋館を目にして「トトロが喜んで住みそうな自然に囲まれた家」として1991年に本で紹介され、注目されました。

この家に住んでいたのが、近藤英さん(1部32D技)で桑沢を卒業後、桑沢でドレスデザインの教鞭を長きにわたり執り多くの後輩を育てました。この家は英さんの叔父で都市計画家の故謙三郎氏

が大正末期に建築。その養女となった英さんが継いでいたもので趣味の園芸も生かし、庭園の手入れにも力を注いできました。

宮崎監督に著作で紹介されたこともあり、ジブリ作品のファンら多くの人が訪れるようになっていましたが、英さんが高齢などを理由にかつて両親が住んでいた隣家に転居。洋館は解体の話も出ましたが、署名運動が広がり、遂に杉並区が買い上げました。

2007年7月、宮崎監督が名付けた、英さんの名前と、誰のものでもあるという意味での「Aさんの庭」としてこの洋館と共に公園施設として開園式が開かれました。ところが、2009年2月、不審火で家が消失。その後、近藤さんは2022年9月に98歳で亡くなりました。

2006年ごろ、この魅力ある洋館と住んでいる近藤さんに注目して写真集を作ろうと立ち上がったのがグラフィックデザイナーの伊勢功治さん(1部56L2B)で、2017年に自費出版で上梓しました。そしてこのたびこの本に平凡社が注目し、2025年2月に「バラの花咲く家」として再出版されました。(写真：公文健太郎 文：近藤英 企画・デザイン：伊勢功治)



バラの花咲く家

伊勢さんは出版にあたり、「近藤英さんのモノを大切に暮らすに触れて、自然や生き物との共生、環境を考えるきっかけとなれば」と語っています。

これから暖かくなる季節となり、バラをはじめとする多くの花が咲く庭を訪れてみてはいかがでしょうか。



Aさんの庭：東京都杉並区阿佐谷北 5-45-13

同窓会主催 トークイベント@広島

同窓会主催のトークイベント「瀬戸内デニムの文脈と未来」が2025年3月29日(土)、広島県立美術館(広島市)にて、開催されました。

これは出本正彦さん(1部44D3B)の作品展「柿渋染・襷・デニム展」と連動して行われたもので、出本さんのほか吉村恒夫さん(1部49D3A)、宮畑周平さん(2部H19SD2)、外部ゲストの島田舜介氏(株式会社ITONAMI)、湯浅遼太氏(デニムのイトグチ)が登壇。



トークイベント「瀬戸内デニムの文脈と未来」
<https://xs781169.xsrv.jp/info/14746.html>

岡山・広島の地場産業であるデニムをテーマに、その歴史から素材としての面白さ、産業構造、地域創生に至るまで幅広いトークが繰り広げられ、各地の



出本正彦さんと、出本さんデザインの
の衣装を着たパルクールのお二人

同窓生を含む約60名の聴衆が耳を傾けました。

閉会後には交流会が開かれ地元の参加者も含め親交を深めました。

2025年も夏期デザイン講座を開催します！

受験に、就活に、ポートフォリオに最適な作品ができます！

今年も夏期デザイン講座を開催予定です。期間は8月19日(火)～23日(土)の5日間コースで、「デッサン」「色彩構成」「造形の基礎」の3つの基礎科目です。日中から夜間にかけての時間帯で、1講座でも、組み合わせてもご受講いただけます。桑沢受験を目指す方、これからデザインを学んでみたい方、またデザインに興味のある方にぜひおすすめくださ

い。高校生以上のどなたでも歓迎いたします。詳しくは6月に入りましたら同窓会の公式サイト、公式SNS (Instagram、X) にてお知らせいたしますのでぜひご覧ください。

昨年2024年の夏期デザイン講座も好評のうちに終了しました。初心者・経験者どちらの方々にとっても段階的に力が付いていく構成になっており、最終日の

講評では全員でその経験を共有するという、リアル講座ならではの体験をしていただきました。

またワークショップやトークイベントなど、2023年まで夏期デザイン講座と並行して開催しておりました「特別講座」は、2024年より10月の桑沢祭(文化祭)に合わせて開催することとなりました。こちらもどうぞよろしくお願いたします。(2024年の特別講座の報告は以下をご覧ください。)



2024年 秋の同窓会イベント報告

2024年10月5日(土)、6日(日)に開催の桑沢祭に合わせて、同窓会主催のイベントが3種同時に開催されました。在校生から桑沢を目指す学生、その友人知人やご家族などたくさんの方々にお越しいただき、世代を越えての交流で賑わった2日間。ご協力、ご参加いただきました皆様、ありがとうございました！

① **チャリティフリーマーケット**……東日本大震災の2011年から(近年は偶数年)続いているフリマで、今回は書籍に特化した開催でした。2日間の利益

63,140円は、半分ずつを「認定NPO桜ライン311」と「BRIDGE KUMAMOTO」に寄付いたしました。バラエティーあふれる書籍が集まり、買うまで中身がわからない「本ガチャ」が大好評でした！

[企画運営・同窓会役員(以下同) 森井ユカ/宮澤太地]

② **ワークショップ「HANDS ON WORKSHOP」**……2024年桑沢新人賞を受賞した3名(李慶花、かお、玉城結羽)と協力し、お面づくりやzineの編集など短時間で造形とデザインの楽しさを予約



松のお香作りワークショップ。賑やかな校内の中で静かで落ち着いた香り、清々しい香りに満ちた空間でした。

不要・無料で体験できるワークショップを開催しました。子供から大人までがものづくりに触れ、笑顔に溢れた空間となりました。 [企画運営・鈴木順平]

③ **桑沢特別講座「松のお香づくり体験講座」「ゲーム業界目指すには」**……どなたでもデザインの世界に深く触れることのできる有料講座、これまで夏場の開催でしたが初の秋での開催です。お香づくりは素材を手で練って形に仕上げ持ち帰っていただき、ゲーム業界についてのトークショーでは現役ゲームプロデューサーが丁寧に業界事情を解説しました。

[企画運営・由良万紀子]



数百冊の書籍が集まったチャリティフリマ。残った約30冊の書籍は桑沢図書室とチャリボンに寄付いたしました。



お面づくりのワークショップ。ベースを選び、個性豊かにアレンジします。被れば人格も変わるかも?!

坂本菜子さんが Web サイト「人ともものと水との関わり」の開設に参画

坂本菜子さん（1部34L研A）は、公共トイレの環境改善を考える有志の集まりとして結成された日本トイレ協会の中心メンバーの一人として、長きにわたり活躍してきました。このたび同協会は坂本さんの活動の足跡を辿る Web サイト「人ともものと水との関わり」を開設。当サイトには「世界に誇れる日本のトイレ」に繋がる数多くの内容が収録されています。坂本さんは、世界や日本の各地で出会った水まわりとメンテナンス性に配慮した先人たちの知恵や考え方が、トイレの未来を考えるうえで、なんらかのヒントになれば幸いです、と語っています。



https://www.toiletmaintenance.org/hito_mono_mizu/

ニャンとも平和な陣取りゲーム「Nego」絶賛発売中!

顔を合わせてはいけない、ボスネコに顔を向けてはいけないなど、ネコの習性をルールに取り入れたボードゲーム「Nego（ネゴ）」の企画、原型デザインを担当しました。石膏製で、アクリルのゲーム盤に置いたときに「パチッ」と音がするように仕上がっています。アッシュコンセプト「+d」から発売、オンラインやリアル店舗でお取り扱い中です。負けたコマ数だけ「ニャー」となくのをお忘れなく！（森井ユカ／ユカデザイン）



koncent の YouTube では名人戦の様子もご覧いただけます。8,800円（税込）。

新書体「はるかぜ」が、株式会社モリサワよりリリース

グラフィックデザイナーの高橋はるかさん（1部H28VD3B）が原案・監修を手がけた書体「はるかぜ」が、株式会社モリサワよりリリースされました。

「はるかぜ」は、丸い輪のような装飾が楽しいゴシック系のデザイン書体です。やや小さめの字面と角丸のエレメントに、手書きの筆跡を参考にデザインされたくるとループする特徴的なパーツを合わせています。可愛らしさのなかに、親しみや柔らかさを感じさせるオリジナリティ豊かな書体です。

あいうえお ㇿイウエオ 安以字衣於
かきくげ こカキクケコ 加幾久計己
ざしずせそサシスセソ 左之寸世曾
たちつてと タチツテト 太知川天止
A B C D a b c d 1 2 3 4 、 。 ! ? 「 」
デジタル文字は美しく進化する

桑沢デザイン研究所同窓会の Instagram アカウントが開設されました!



@kuwasawa_dosokai



桑沢デザイン研究所同窓会の Instagram アカウントが開設されました！在校生と卒業生をつなぐイベントや企画、卒業生の展示会情報など、交流を広げる活動を発信していきます。在校生、卒業生、先生方、そして桑沢に関わるすべての皆さま、ぜひフォローをよろしくお願いいたします！



2026年度 専門学校桑沢デザイン研究所 推薦入学（同窓会推薦）募集のお知らせ

昨年度に引き続き、今年度も専門学校桑沢デザイン研究所より、同窓会に推薦入学募集の要請がありました。

つきましては、「自分の子供、孫、兄弟姉妹をぜひ、桑沢に入学させたい」と希望される方は、9月中旬までに同窓会事務局にご連絡ください。推薦入学関係書類をお送りいたします。

●募集人員：若干名（総合デザイン科・昼間部／専攻デザイン科・夜間部）推薦入学の試験は10月19日（日）を予定しています。

47・48期 同期会を開催

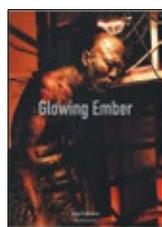
2024年11月2日、神保町の学士会館にて、47・48期リビング&ドレスデザイン科の同期会が開催されました。2018年以來の再会となり、44名が集まりました。欠席者からのメッセージも掲示され、会場は笑顔と懐かしい話で溢れました。

次回の同期会は2026年秋を予定しています。再会を楽しみにしています。



*幹事連絡先 平川 康史: camisa0623@gmail.com 房 忍: fusa@studio23.co.jp

出版のお知らせ



『Glowing Ember』
小林茂美 (2部49GD2)
有限会社 Arts
2,800円 (税込)



『了巻説百物語』
京極夏彦 (1部57L2B)
KADOKAWA
4,400円 (税込)



『りょこうにいこう!』
五味太郎 (2部42PDID)
偕成社
1,540円 (税込)



『収納され続ける収納生活者のデザイン史』
北田聖子
(デザイン学分野専任教員)
雷鳥社 2,000円 (税別)



『病葉草紙』
京極夏彦 (1部57L2B)
文藝春秋
2,420円 (税込)



『狐花 葉不見冥府路行』
京極夏彦 (1部57L2B)
KADOKAWA
2,310円 (税込)



『田代卓の仕事 vol.1 / vol.2 / vol.3』
田代卓 (1部55L研GD)
玄光社
vol.1、2 : 3,850円 (税込) vol.3 : 3,520円 (税込)



『ならんでいる』
五味太郎 (2部42PDID)
絵本館
1,300円 (税別)



『Knitting' n Stitching Archives.』
宮田明日鹿 (1部H18L系3A)
ELVIS PRESS 3,500円 (税別)



『サルでもととのうサウナ教室』
周田心語 (1部H24VD3A)
文響社
1,595円 (税込)



『書楼吊堂 霜夜』
京極夏彦 (1部57L2B)
集英社
2,530円 (税込)



『ジュンコ先生の軌跡 ウォークインライフ』
中川もと子 (1部37L2V)
ぶんしん出版
2,546円 (税別)



『マンガでわかる 釣りのはじめ方!』
多田あゆ美 (1部H10L2C 住)
つり人社
1,760円 (税込)



『カラー版『日本村』2022-2024 島』
山田脩二 (1部34L研A)
ぴあ
7,700円 (税込)



『ピザとも』
牛窪良太 (1部60L研イ住)
白泉社
1,320円 (税込)



『味噌・酒粕』
有元葉子 (1部37L2P)
家の光協会
1,800円 (税別)



『めんの本』
有元葉子 (1部37L2P)
文化出版局
1,800円 (税別)



『本当のわたしを見つけにいこう』
フェリックス・ファブリック (2部H30VD2A)
KADOKAWA
1,650円 (税込)

受賞のお知らせ (学生は在校時)

- 川田敏之 (2部 H22VD2A) コクヨデザインアワード 2025 グランプリ 対象作品:「NEWRON」
- 松村佳宙 (2部 2024PD2) コクヨデザインアワード 2025 優秀賞 対象作品:「KAKONET」
- 安田存人 (昼間部ビジュアルデザイン専攻 3年在校生) 船橋市写真展 写真集の部 優秀賞 対象作品:「PAC2」
- 吉田亜沙美 (2部 H26VD2B) 中野ショートフィルムフェスティバル「ナカヌ」 一般部門 (レギュラー) グランプリ 対象作品:「中野セントラルデイズ」
- 土井智喜 (2部 H19SD2) 比嘉丈偉 (2部 2023PD2) 東京インターナショナル・ギフト・ショー「第17回 LIFE × DESIGN」 ベストサスティナビリティ賞
- 土井智喜 (2部 H19SD2) 比嘉丈偉 (2部 2023PD2) 2024年度 東京ビジネスデザインアワード テーマ賞
対象作品:「大切な道具を守るためのプロダクト開発と既存ブランドの強化」
- 吉田昌平 (=白い立体 / 2部 H19VD2B) 第66回全国カタログ展 経済産業大臣賞 対象作品:「ハニワと土偶の近代」
- 志摩健 (1部 H20SD3E) iF DESIGN AWARD 2025 Interior Architecture / Public Interiors 部門受賞 対象作品:「桑沢学園・新教育施設」
- 松村佳宙 (夜間部プロダクトデザイン専攻 2年在校生) ミラタップデザインアワード 2024 プロダクトデザイン部門 入賞 対象作品:「+ HOOK」
- 納谷茜 (昼間部プロダクトデザイン専攻 2年在校生) 日本酒ボトルデザインコンテスト Presented by アイエ務店 入賞 対象作品: テーマ「家族との団らんを彩るお酒」
- 伊藤文人 (1部 48L 研 GD) 第33回那須良輔風刺漫画大賞 一般の部: 那須良輔大賞 対象作品:「アイドルのポスター?」
- 飯塚鈴 (1部 2023PD3D) 2024年度グッドデザイン・ニューホープ賞 入選 対象作品:「gu-mo (ゲーム)」
- 松村佳宙 (夜間部プロダクトデザイン専攻 2年在校生) 富山デザインコンペティション 2024 入選 対象作品:「茶筒なキートレイ」
- 丸山廉太郎、安倍志緒里、榛沢彩加、橋口真衣、ポラード碧 (共に 2部 2023VD2B) 第14回世界ポスタートリエンナーレトヤマ 2024 入選 対象作品:「アrik祭 “デ”」
- 田尾さくら (夜間部ビジュアルデザイン専攻 2年在校生) 第14回世界ポスタートリエンナーレトヤマ 2024 U30+Student 部門 入選 対象作品:「重なり、覆われている」
- 林青那 (1部 H21VD3B) D&AD Awards 2024 Wood Pencil 対象作品:「日本機械学会誌」 cover illustration
- 伊藤健 (夜間部ビジュアルデザイン専攻 1年在校生) JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024 銅賞 対象作品:「Imagination」
- 上田康博 (夜間部ビジュアルデザイン専攻 2年在校生) JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024 審査員賞 佐藤卓賞 対象作品:「There, Near, Disappear」
- 宮崎晃大 (夜間部ビジュアルデザイン専攻 2年在校生) JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024 協賛企業特別賞 ターナー色彩賞 対象作品:「人類皆兄弟」
- 崔翔鈞 (夜間部ビジュアルデザイン専攻 2年在校生) JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024 入選 対象作品:「平和とは、秩序が機能していると感じるとき」
- 松丸夢佳 (夜間部ビジュアルデザイン専攻 2年在校生) JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024 入選 対象作品:「抱きしめたい」
- 村山佳奈美 (夜間部ビジュアルデザイン専攻 2年在校生) JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024 入選 対象作品:「積み重ねてきた歴史たち」
- 坂梨麻理奈 (夜間部ビジュアルデザイン専攻 2年在校生) JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024 入選 対象作品:「PEACE SYSTEM」
- 松村佳宙 (夜間部プロダクトデザイン専攻 2年在校生) NIYU 2024 家具デザインコンテスト 審査員賞 対象作品:「Kimi-Medal 頑張る君にメダル型ルーペ」
- 児玉篤司 (1部 2020VD3B) 第91回毎日広告デザイン賞 広告主課題の部 優秀賞 対象作品: 象印マホービン「企業広告」 30段カラー 3点シリーズ
- 横山友人 (昼間部ビジュアルデザイン専攻 3年在校生) 「第12回 方正賞 Founder Award」学生部門 審査員賞 (汪文賞) 対象作品: 石積
- 肖陳新 (1部 2023VD3A) プラチナクリエイティブ国際大学生グラフィックデザインコンテスト 優秀賞
対象作品:「羽金ゼミ中間展示ポスターデザイン」「青森林檎パッケージデザイン」
- 岡田友香梨 (2部 2019VD2A) Topwards Asia 受賞 対象作品: 黒猫庵

2024年からの個展・エキシビジョンMEMO ●主に同窓会にご連絡いただいたものを掲載しました。ご協力ありがとうございました。次回のニュースでもお待ちしております。

誌面の都合により9月以前の個展・エキシビジョンの情報は、同窓会ウェブサイトをご覧ください。

シュルレアリスム宣言 100年記念「溶ける魚 孤独な鳥」	10月9日～19日	東京・新高門寺 ポルトリブレ	今井雅洋 (1部 48L3GD) ほか
高井戸の日常 vol.2	10月5日・6日	東京・杉並高井戸区民センター 3F 5 集会所	磯部万里 (1部 H26SD3E)
昼間部ファッションデザイン専攻卒業制作作品展	10月5日～11月9日	兵庫・神戸ファッション美術館	昼間部ファッションデザイン専攻科生徒
Canvas in the woods- NIKARI meets Japanese artists -	10月9日～14日	東京・新宿 伊勢丹新宿本店本館 5階 リビングパーク	林青那 (1部 H21VD3B) ほか
グループ展「Kinkyu」	10月13日・14日	東京・千駄ヶ谷 Territory Gallery	夜間部ビジュアルデザイン専攻 2年在校生 & 基礎造形専攻修了生有志
林青那「MONOTYPE」	10月16日～11月9日	東京・中目黒 dessin デッサン	林青那 (1部 H21VD3B)
ROOM802	10月17日～22日	東京・渋谷 HIKARIE 8/CUBE	五十嵐智行 (1部 H26VD3C) ほか
親子2人の紙工作合戦!ペーパー狭間の戦い	10月26日～12月1日	愛知・名古屋 ZENT ART MUSEUM	オダカマサキ (1部 H09L 研 ID)
Best Artists Exhibition 19th	10月30日～11月4日	東京・銀座 ミレージャギャラリー	原由美子 (1部 43L3PK) ほか
櫻井春彦デザイン展ー現実と夢の間で	11月1日～7日	東京・吉祥寺 PENNY LANE GALLERY	櫻井春彦 (2部 H28SD2)
二人展「EAU DE Parfum」	11月2日～4日	東京・江東区三好 GALLERY Klyuch	時田アリス×かなこ (夜間部ビジュアルデザイン 2023年度卒業生)
グループ展「1994 ↔ 2014 ↔ 2024 展」	11月2日・3日	東京・中野 なかの ZERO	夜間部 H06VD2A グループ有志
野外アート展 トロールの森 2024 「風のにおい」	11月3日～23日	東京・杉並 都立善福寺公園	池ヶ谷務 (1部 47LC イ住) ほか
イラストレーショングループ展 Someone in the Crowd	11月4日～6日	東京・神宮前 デザイン・フェスタ・ギャラリー原宿 EAST 102	夜間部ビジュアルデザイン専攻 1年有志 4人グループ
猫百態展 vol.5	11月11日～17日	東京・銀座 柴田悦子画廊	小林由里 (1部 59L 研 GD) ほか
木村勝企画展「KATSU KIMURA -BOX WORKS-」	11月25日～12月1日	東京・南青山 Gallery5610	木村勝 (2009年桑沢特別賞)
高島修二造形展「翼のある日 / I will wings」	11月25日～12月1日	東京・六本木 ストライプハウスギャラリー	高島修二 (1部 48D3A)
DESIGNTIDE TOKYO 2024	11月27日～12月1日	東京・日本橋 日本橋三井ホール	渡辺和音 (1部 H16L 系 3B) ほか
JAGDA 国際学生ポスターアワード 2024 展	11月27日～12月9日	東京・六本木 国立新美術館 展示室 1C	夜間部ビジュアルデザイン専攻在校生
ネオ妖怪展「パラレル」	12月6日～15日	東京・代官山 ギャラリー子の星	松本沙希 (2部 H19VD2A) + 森井ユカ (1部 60L2A)
個展「BLUE HOUR」	12月11日～28日	東京・国分寺 BACKEN	rino. (夜間部ビジュアルデザイン専攻 2年在校生)
倉俣史朗 Shiro Kuramata Cahier	12月13日～28日	東京・駒込 ギャラリー・ときの忘れもの	倉俣史朗 (1部 31LA)
マイ・ファースト・アート展 2024 ～はじまる、わたしのアートライフ～	12月18日～24日	東京・新宿 伊勢丹新宿店 アートギャラリー	加藤慶将 (1部 2023VD3B) ほか
第30回小さい小さい絵展	12月19日～25日	東京・池袋 東武百貨店アートギャラリー	小林由里 (1部 59L 研 GD) ほか
2025年			
二人展「ももとなつもの楽しい冬」	1月3日～6日	東京・渋谷 アート・イン・ギャラリー	うめはらもも (1部 H27VD3C) + 矢吹千夏
Kari Ishikawa 個展『my own place』	1月5日～30日	神奈川・横浜 garage YOKOHAMA	Kari Ishikawa (2部 H27FD2)
今井雅洋個展「片影 hen ei」	1月7日～19日	東京・人形町 JINEN GALLERY	今井雅洋 (1部 48L3GD)
高橋あゆみ個展「SOFT OBJECTS」	1月11日～23日	京都・下京区 藤井丸丸 7F 7 gallery	高橋あゆみ (2部 H26VD2B)
川内歴史資料館収蔵とゆかりの美術展	1月16日～2月15日	鹿児島・薩摩川内市内川内まごころ文学館	吉永邦治 (2部 40PD イ住) ほか

「BUTSUDORI ブツドリ：モノをめぐる写真表現」	1月18日～3月23日	滋賀・大津市 滋賀県立美術館 展示室3	大辻清司(1996年桑沢特別賞)、オノテラユキ(1部58D研A)、潮田登久子(1部38L3写真)ほか
創造の日常着「YUDANGI(ユダンギ)」 発売記念POP UP STORE	1月21日～27日	東京・銀座 Gallery WABI	三上司(1部H15D系DD3A)、山口舞(2部H16FD2)、岸さゆみ(1部H15L系VD3B)
GOO CHOKI PAR "Running Shapes"	2月3日～23日	東京・原宿ニューバランス原宿	GOO CHOKI PAR＝グーチョキパー：浅葉球(1部H18L系3B)、飯高健人、石井伶(1部H18L系3C)
林青那展	2月5日～11日	東京・銀座 銀座三越 ギャラリー	林青那(1部H21VD3B)
グループ展「35°38'40.2" N139°42'04.1" E24" T(現在地)」	2月5日～11日	東京・上目黒 at 光腕	後藤寛太、土田百都花(昼間部ビジュアルデザイン2年在校生)ほか
グループ展「Bankett ～繋ぎ～」	2月8日・9日	東京・日本橋 Art quick	昼間部総合デザイン科2年有志7人
石元泰博・コレクション展「雪のシカゴ」	2月8日～4月13日	高知・高知市 高知県立美術館 2F 石元泰博展示室	石元泰博(1996年桑沢特別賞)
村上明・新星エビマヨネーズ二人展	2月11日～16日	東京・高円寺 BLANK Koenji	村上明(2部H22VD2A) + 新星エビマヨネーズ(夜間部VD卒業)
紺野達也展「風へ」	2月14日～3月3日	東京・三軒茶屋 twiilight	紺野達也(1部H24VD3B)
「絹が生まれる場所」展 一絹と人のこれまでとこれから	2月14日～26日	神奈川・横浜 Bankart KAIKO	新津保朗子(1部H15L系SD3E)
みちくさ	2月19日～25日	東京・神田 文房堂 Gallery Cafe	いのうえはるみ(夜間部ビジュアルデザイン1年在校生)ほか
青木健二『still life (2nd edition)』刊行記念展	3月11日～16日	東京・銀座 森岡書店	青木健二(2部63VD2B)
「showcase#2」	3月11日～17日	東京・大田区多摩川 GALLERY futari	かお(1部2023VD3)、芳賀あきな(1部H26VD3C)、ナガトアタル(1部63研ID)ほか
Special Art Exhibition Dai Tamura x Zoji	3月20日～23日	東京・芝公園 大本山 増上寺	田村大(1部H20VD3A)
出本正彦 柿渋染・襦袢・デニム展	3月25日～30日	広島・広島市 広島県立美術館	出本正彦(1部44D3B)
吉田昌平 展覧会『の』	3月27日～4月19日	東京・新宿 Roll	吉田昌平(2部H19VD2B)
「瀬戸内デニムの文脈と未来」トークイベント	3月29日	広島・広島市 広島県立美術館 B1 講堂	主催：桑沢デザイン研究所同窓会
ART EXHIBITION "WA!"	4月4日～6日	東京・上石神井 東京おかつぱちゃんハウス	くしだちゅうろう(2部2023VD)ほか
欲展	3月29日～31日	東京・根津 ギャラリーマルヒ	河村健太(1部2024FD3F)
ラーメンどんぶり展	3月7日～6月15日	東京・赤坂 21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー 1 & 2	浅葉克己(1部34L基A)ほか
KUWASAWA : Its Philosophy, Legacy, and Evolution	4月11日～29日	東京・渋谷 桑沢学園・新教育施設 B1 イベントスペース	青木健二(2部63VD2B)
NEW NORMAL 5 -Japanese Maison-	4月7日～13日	Zetalab (Via Cola Montano, 2, 20159 Milan, Italy)	土井智喜(2部H19SD2)、浦田孝典(1部H07L2Cイ住)、安田存人(1部2024VD)ほか
吉崎亜希個展「こどうが きこえた」	4月7日～12日	東京・北青山 GALLERY HOUSE MAYA	吉崎亜希(2部2023VD2B)
UPCOMING	2025年		
saltopia (Sio Nagaoka) 個展 NUMB	5月3日～5日 12:00～18:00 (最終日16:00まで)	popup 代官山ギャラリー 渋谷区猿楽町25-3 永岡詩緒(1部2024VD)	
Artoy 展 2025	6月12日～17日 11:00～18:00 (最終日16:00まで)	文房堂ギャラリー 千代田区神田神保町1-21-1 花島平(1部49L研ID)、原千夏(2部H01PD2)、藤山鉄己(1部52L研ID)	
「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創チャレンジ MERRY EXPO / MERRY SDGs ACTION 2025	6月29日 11:00～17:00	大阪・関西万博会場内 ポップアップステージ(東内) 大阪市此花区夢洲 https://www.merryproject.com/event/go-to-2025/ 水谷孝次(2部50VD2A)	
森弥栄子展	10月30日～11月5日 11:00～19:00 (最終日16:30まで)	ギャラリー絵夢 新宿区新宿3-33-10 新宿モリエールビル3F 森弥栄子(1部42L3GD)	
高鳥修二 造形展 「僕のラジオ2 ドキドキが聞こえる」(仮)	11月13日～20日 11:00～18:30 (最終日17:30まで)	ストライプハウスギャラリー 港区六本木5-10-33-3F 高鳥修二(1部48D3A)	

■ 計報

● 井上耕一さん(1部36L2A) デザインリサーチャー 2024年7月8日逝去 享年85
1962年桑沢デザイン研究所卒業。1971年より2003年まで長きにわたり桑沢にて「デザイン論」を教える。当時、モダンデザインの教材が不足していたため、世界各国へ行き、

近代建築からデザイン、アートに至るまで取材・撮影してそれらを授業に活用。30年以上にわたる精力的なフィールドリサーチの成果として、『アジアに見るあの坐り方と低い腰掛』(丸善出版)、『身体装飾の現在』シリーズ(朝倉書店)を出版。これまでの調査・活動の貴重な資料は南山大学等に寄贈された。2021年「桑沢特別賞」受賞。

同窓会事務局より

- 今回も同窓会ニュースの原稿を多くのみなさんよりいただきましてありがとうございます。仕事の報告、個展の案内・報告、コラム、受賞、出版情報などお知らせください。またデザイン関連以外のこと(例えば、ボランティア活動、自慢のコレクション、ショップ経営など)や若い人の活躍、地方のニュースなども大歓迎です。原稿をお待ちしております。次号(193号)は2026年4月下旬に発行の予定です。(原稿締切2026年2月末)
- 同窓会名簿の充実のため、住所移転や同窓会ニュースの送付先変更などありましたら必ず同窓会事務局までご連絡ください。どちらも同窓会までEメールまたはファックスにてご連絡をお願いいたします。
- 旧住居表示のままの方は郵便物が届かなくなりますので住所変更をお願い致します。建物名を省略しておりますと届かない場合もございますので建物名もお知らせください。
- みなさんのお知り合いで同窓会ニュースが届いていない同窓生がおられましたら同窓会

までご連絡頂けますようお願いください。また、お亡くなりになられた同窓生に依然として同窓会からのお知らせや同窓会ニュースが届けられている場合は、ご家族の方から事務局へご一報頂ければ、配送停止の手続きをいたします。

同窓会の活動をご支援ください。

同窓会活動の継続と発展を目的として寄付金募集の案内をさせていただきます。ご協力をいただける方は記載のQRコードの手順に沿ってお手続きをお願いします。今後も引き続き同窓会活動へのご理解とご協力をお願いいたします。



問い合わせ先 桑沢デザイン研究所同窓会事務局

KDS NEWS
dosokai
2025 no.192
2025年4月25日発行

桑沢デザイン研究所同窓会

150-0041 東京都渋谷区神南1-4-17
TEL 03-3462-4029 FAX 03-3462-4090

✉ info@kds-doso.net 🌐 www.kds-doso.net/

📘 www.facebook.com/kdsdoso 📧 kuwasawadoso

📷 kuwasawa_dosokai

発行編集

桑沢デザイン研究所同窓会
大槻高康(1部48L3GD)、田辺千晶(1部56L2Cイ住)
赤羽なつみ(1部49L3PK)、森井ユカ(1部60L2A)
もりいくすお(1部60L2A)、宮澤大地(2部H17VD2B)
日下部昌子(1部H06L研GD)、後藤和樹(1部H30PD3D)
池田系(2部2021VD2A)、宮代美佐江(1部57L研写真)

デザイン

GRID + 矢島裕丈(1部H18L3B)

+ 山田友香子(2部H25基礎造形)
撮影 吉田仁(1部45L3写真)、雑賀吉人(2部H19VD2A) / 他
校閲 本田理恵(1部H20VD3C)、伊草喜久江(事務局)
印刷 株式会社 アトミ